

## 須賀神社

須賀神社では、19世紀後半から、聖なる島である沖ノ島を遥拝する神道の儀式が行われてきました。田植えの季節が始まる前、毎年5月に地元の人々が健康を祈るためにこの神社に集まり、祭壇に米と野菜を備え、沖ノ島に向かって神官と祈ります。沖ノ島には、宗像三女神の1つが祀られています。

地域の言い伝えによると、この伝統が始まったのは、1890年に赤痢が流行した後のことです。この地域から数名が沖ノ島に行き、赤痢がなくなるよう祈りました。その後まもなくして人々は回復し始め、赤痢の流行は止まりました。

この奇跡的な回復後、須賀神社に最も近い山である在自山(249m)の見晴らしの良い場所から沖ノ島に遥拝することが一般的になりました。人々は、時が経つにつれて、在自山に登るのではなく須賀神社の敷地から沖ノ島に祈るようになりました。2つの石段の近くにある石の祭壇は、在自山と沖ノ島のほうを向いています。この石段の上に立てば、在自山の頂上をもっとよく眺めることができます。

須賀神社周辺の集落である手光の人々は、今後病気が発生した場合に備えて、集団での医療扶助の仕組みを導入しました。村人は、自分たちを診る医者を雇うために、収穫した米の一部を毎年出しあつたのです。